

三世代楽級開催

石垣市子どもセンターと共催



五月五日子供の日、石垣市子どもセンター主催のイベントに、支援チームからの委託を受けて石垣島昔遊び伝承会が参加し、三世代楽級を開催しました。

今回の楽級は子どもセンターからの参加要請を受けたもので、全体の中の物づくりコーナーと触れ合いコーナーを担当する形で大勢の親子連れが集まった中で、山里館長の司会進行で進められました。

最初に金城会長から挨拶と参加者の紹介があり、具志堅さんの草笛演奏がありました。続いて真謝さんの一口講話があり、竹トンボと竹笛の物づくりコーナーが始まりました。

会場には、午前と午後を合わせておよそ三百五十人の親子が集まり、竹ト



ンボと竹笛にはそれぞれ六十組ほどの親子が物づくりに挑戦していました。また、紙ヒコーキは午後からでしたが、四十組ほどの親子が大空に向かって紙ヒコーキを飛ばし、楽しそうな歓声が響いていました。

この後、竹トンボ飛ばしと紙ヒコーキ飛ばしの勝ち抜き戦を行い、一位、二位、三位にそれぞれ賞状と粗品のプ

プレゼントが贈られました。もらった子ども達は大喜びでした。

午後は平真小学校のマーチングバンドの演奏や、飛び入りのハワイアンダンスもあって、賑やかなイベントとなりました。

最後は支援チームの宮良博之会長の挨拶で終了となり、新年度の滑り出しとしてはまずまずの出来となりました。



「聴く」の文字からわかる

「耳」の象形(「きく」の意味)と「両開きの扉」の象形から「たずねてきく」を意味する「聞」という漢字が成り立ちました。

「聞」 「訊」 「聴」の違いは、辞書的な意味だと以下のようになります。

「聞」 耳で音や声を感じとる。

「鳥の鳴き声を聞く」 「話し声を聞く」 「聞き流す」 「道を聞く」 「親の言いつことを聞く」

「訊」 相手に質問する。 訊問 (じんもん)

「聴」 耳を傾け、注意して聞き取る。 聴取、聴講、静聴、傍聴

「講義を聴く」 「名曲を聴く」 「広く国民の声を聴く」

この聴くという漢字の成り立ちについて、字の中の「十四」とは、十四人に相当するぐらいの広い心だとか、人の心がめまぐるしく変化することをたとえた数字だとか、いろいろと説明されているようです。しかし残念ながらここに、「聴」の字は、漢字の成り立ちか

らいつて、「十四」とは基本的に関係がないようです。

この字の「四」の部分は、字源的には「目」が横になった形だと考えるのが正しいようです。ですから、「聴」を「十四の心に耳を傾ける」という意味だとするのは、あまり根拠のある話ではないのです。

聴

ちなみに、この字の旧字体は「聽」という形で、右半分は十と四と一と心から成り立っていて、この時点で、「十五の心」になってしまします。

「聴く」は、「耳を傾け、相手の心に寄り添いながらきく」といった意味になります。この「聴く」という漢字を分解すると、下記のようになります。

耳 + 十 + 十 + 四 + 十 + 心

耳だけでなく、十四の心で聴くという意味です。また「聴く」とは、耳に目と心をプラスしているから、心を込めて心の目で見えて感じて聴くことが非常に大切だと思えます。

ではここで、「十四の心」とはどんな心なのでしょうか。

- ①「美」しい心で聴く
- ②「新」しい心で聴く
- ③「広」い心で聴く
- ④「楽」しい心で聴く

い心で聴く(きいて、たのしくなる)

⑤「嬉」しい心で聴く(きいて、うれしくなる)

⑥「面」白い心で聴く(きいて、おもしろさがわかる)

⑦「微」笑みの心で聴く(きいて、ほほえましくなる)

⑧「素」晴「晴」らしい心で聴く(きいて、すばらしさがわかる)

⑨「悲」しい心で聴く(かなしみを共感する心できく)

⑩「苦」しい心で聴く(苦しみ

を共感する心できく)

⑪「愛」しい心で聴く

⑫「労」わる心で聴く

⑬「憂」う心で聴く

⑭「感」謝する心で聴く

「清聴ありがとうございます」は会議やプレゼン発表、結婚式などの場で参加者に向けて使うことが多い言葉と言えるでしょう。

その意味としては、「私の話を聞いていただいてありがとうございます」という意味になります。使い方としては、会議の場やプレゼン発表が終わった時点で、発表者が使うことが一般的です。自身に発表の場を設けさせてくれたことに対する感謝の気持ちを述べた言葉として、「清聴ありがとうございます」と言います。

(一部インターネットから引用)

チーム員の横顔 (3)

蔵盛 愛子



- ◎ 元PTA役員等
- ◎ PTA評議員

☆ 支援チームでの役割

講話や体験談を通じて、家庭教育に関する情報提供を担当します。

☆ 抱負

子供達の元気な笑顔！

親子の楽しい時間！

授業参観「来なくていいよ」と言われるくらい参加した日々。

共働きで忙しい日々の子育ては、親子の時間作りでしょうか？

私の子供達と、たくさんの経験、向き合ってる事が、役に立てばいいな！

たくさんの人と人とを結び事で、日々の生活の時間を過ごしたい！



心に響く”言葉”

言葉には香りがあるよ・

「言葉には香りがあるよ。」市役所庁舎にまだ冷房が設置されていない昭和五十年頃、つだる様な暑い夏のある日、汗を拭き拭き庁舎内を巡回している元市長さんが言われました。

その時から今までずっと「言葉の香り」にこだわっています。

平昌冬季オリンピックのカーリング女子チームの姿は、遠く小さな島(石垣島)の人々も、テレビに釘付けになりました。「そだね〜」「そだね〜」の声がテレビから聞こえました。

彼女達の言葉には癒しにつながる香りが確かにありました。相手を思いやる優しい、まるでクチナシの花のような香りが漂っていました。

私にもそのような香りが出せるのだろうか。もっと父母を尊び、家庭を大切にし、地域に役立つように考えて行動すればよいのだろうか。

人を傷つけない言葉に気をつけて、香りのある言葉を使える自分になりたいものです。

「そだね〜」



編集後記

今年度の最初の三世代楽級が開催されました。まだ年間計画を作成中のところ、石垣市子どもセンターからの参加要請があり、支援チームとも協議しての開催でした。

特に五月五日子供の日は、各地区で各種イベントが開催される日でもあり、伝承会のメンバーも集まること難しい状況でもありました。

いろいろと至らない点もありましたが、無事終了でき、来年に向けての反省点の整理もできました。今後もこのような開催要請には対応したいと考えております。

【編集発行】

石垣市家庭教育支援チーム(希杜南)

希…希望に満ち満ちた未来に

杜…人々に育まれた緑豊かな杜に

南…南ぬ島(ぱいぬしま)石垣島より

〒907-0012

沖縄県石垣市美崎町16-6

石垣市教育委員会いきいき学び課

TEL 0980-83-0373

FAX 0980-83-9251